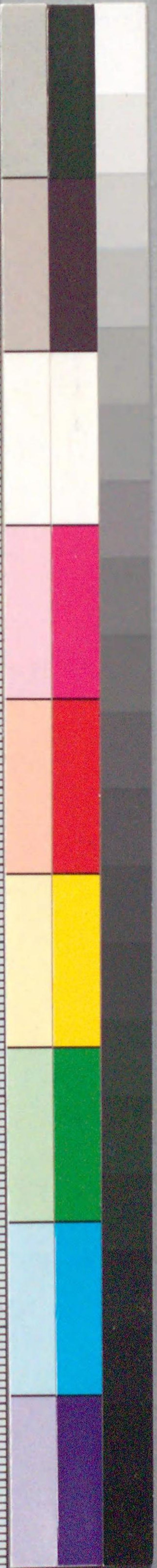




貞探  
美談

松花

208  
15  
696



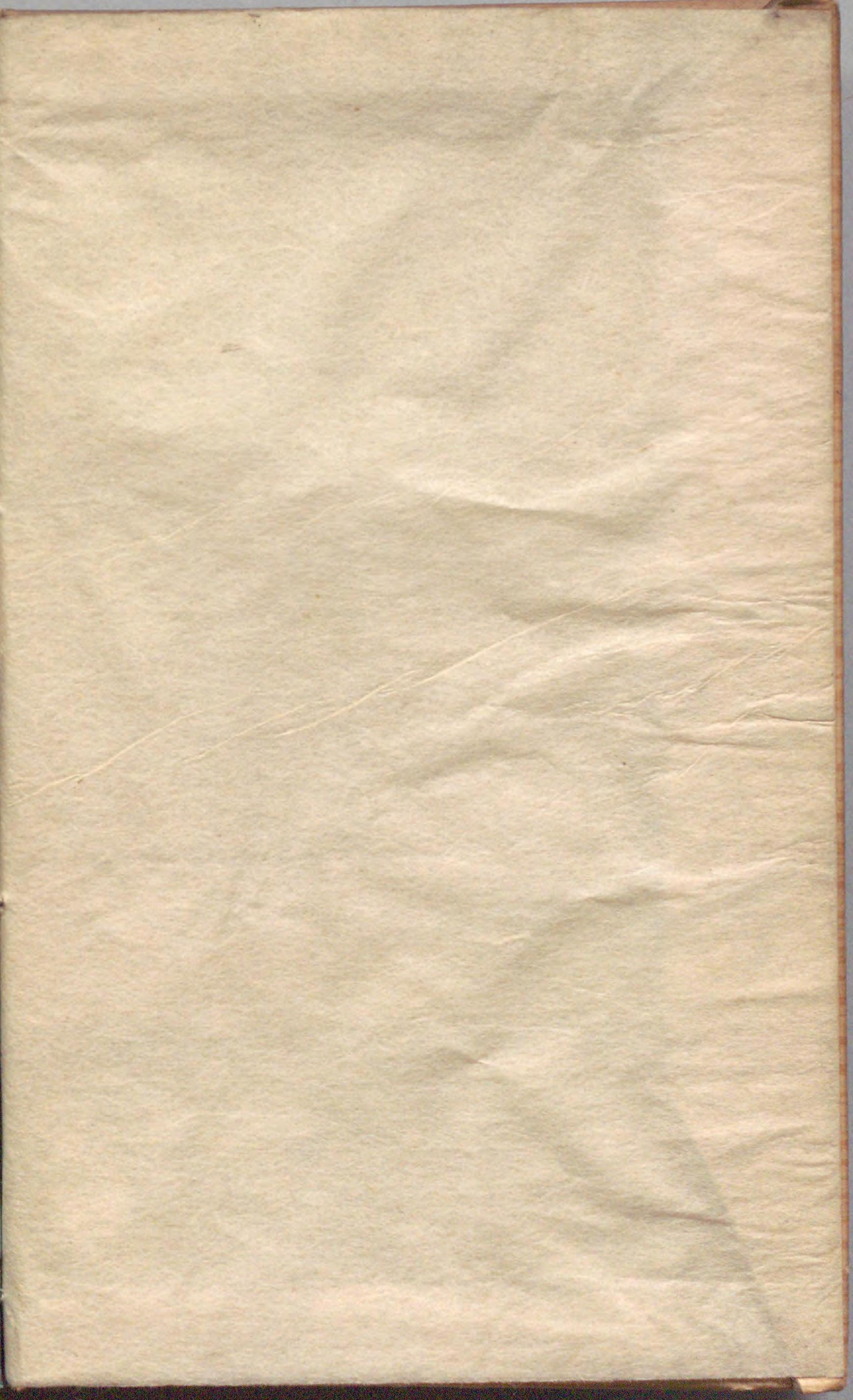
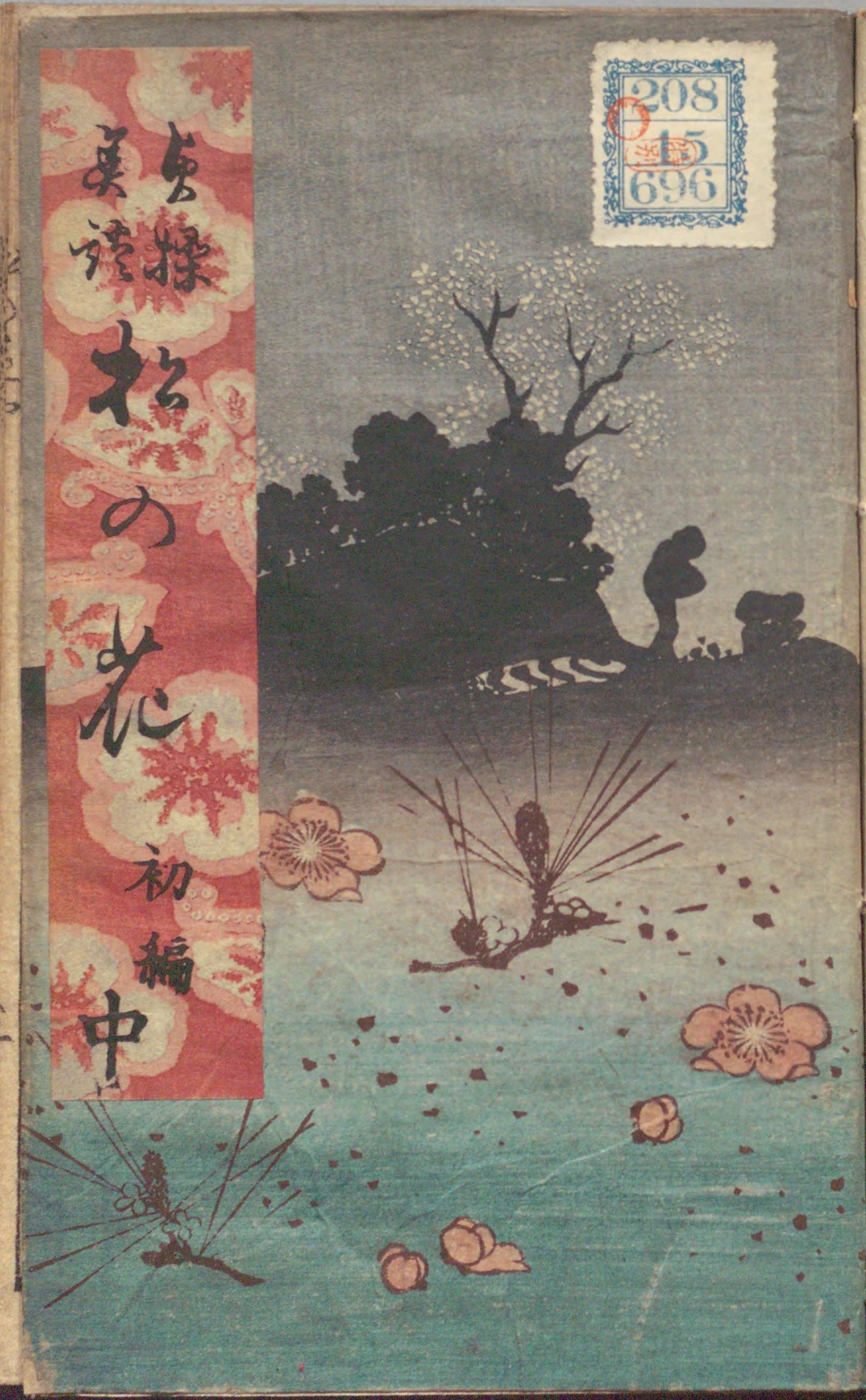
国立国会図書館 松の花 5編 208-696

ガラス使用



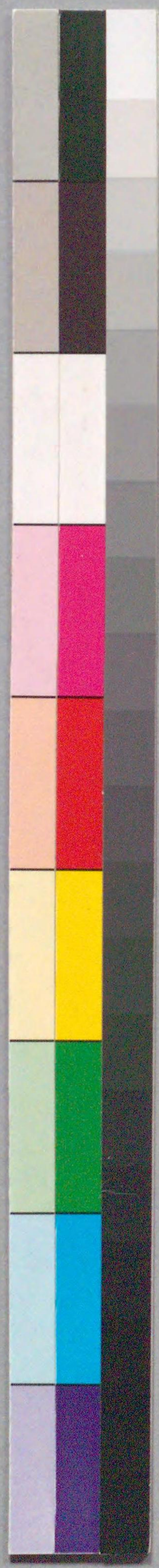
美書探  
松の花  
初編  
中

208  
15  
696



国立国会図書館 松の花 5編 208-696

ガラス使用













自己アモトモ物言の味向のまゝの極で差入申さる何れも  
この御縁成難縁の御代柄を以て一の方ハラサ連  
て此が御縁親父の御代柄と。よりさう自己が引らる  
御縁。何れも御代柄を以て一の方ハラサ連  
強しと此の御縁成難縁。思ふふより差入申さる何れも  
此れハ御代柄を以て一の方ハラサ連  
御縁成難縁の御代柄を以て一の方ハラサ連  
御縁成難縁の御代柄を以て一の方ハラサ連  
御縁成難縁の御代柄を以て一の方ハラサ連

此の御縁成難縁の方まで。お送り申さる何れも  
御縁成難縁の方まで。お送り申さる何れも  
御縁成難縁の方まで。お送り申さる何れも  
御縁成難縁の方まで。お送り申さる何れも  
御縁成難縁の方まで。お送り申さる何れも  
御縁成難縁の方まで。お送り申さる何れも  
御縁成難縁の方まで。お送り申さる何れも  
御縁成難縁の方まで。お送り申さる何れも  
御縁成難縁の方まで。お送り申さる何れも  
御縁成難縁の方まで。お送り申さる何れも

6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12







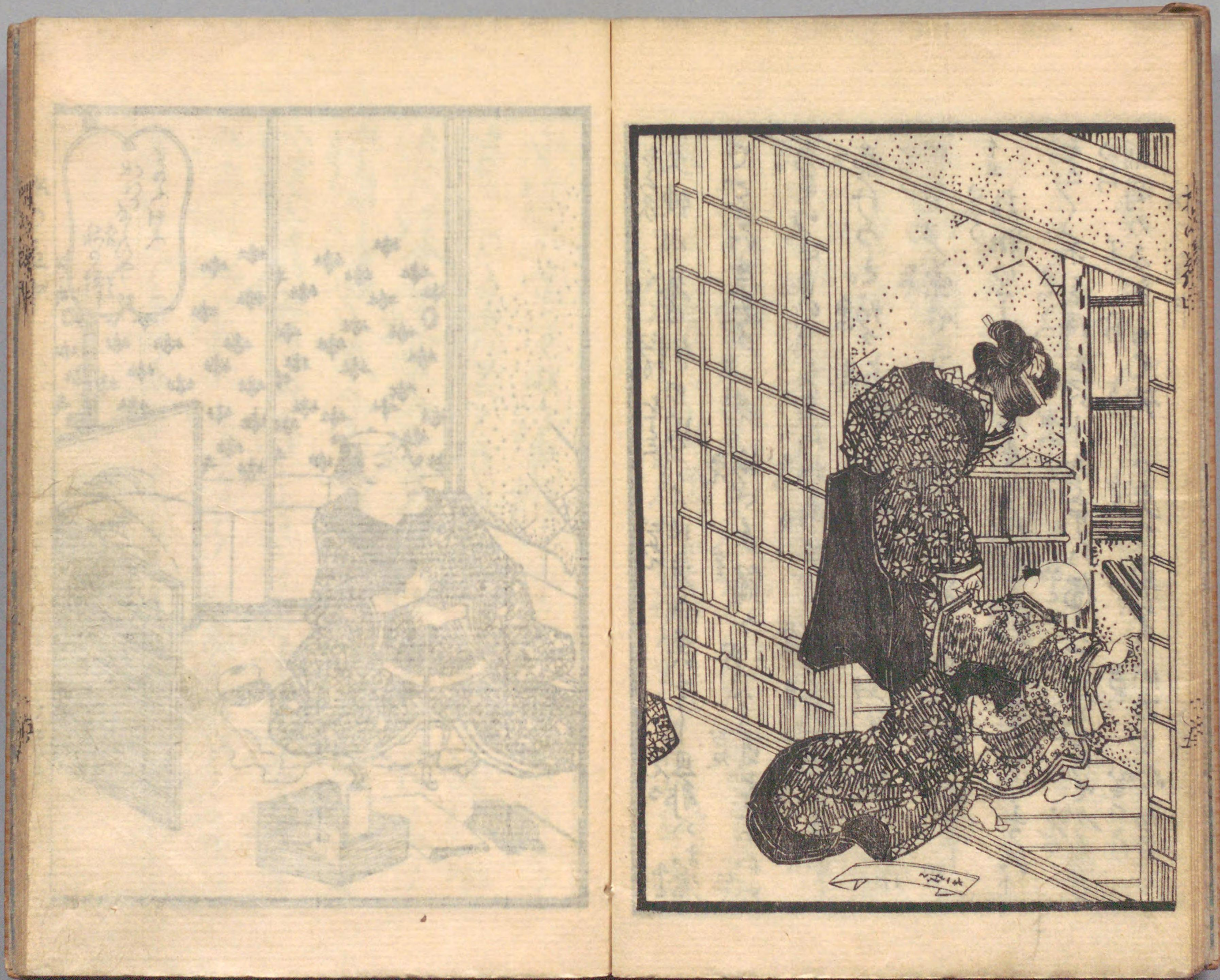
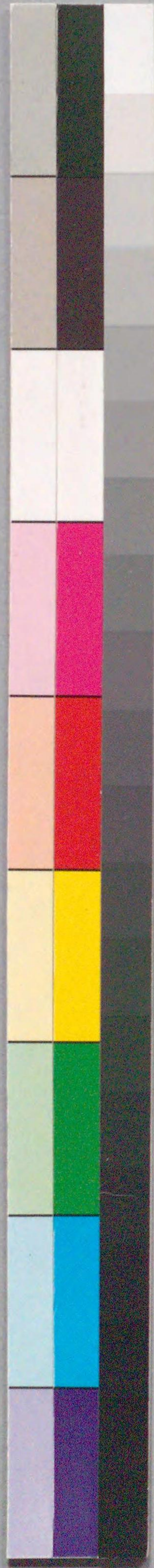
よりきりあらむ。ろと流るる陸揚の。今入るるまてく刀  
 あり。ら毛硫英の目かきまて。ありら毛流も流の流め。  
 中く。花まの燈ふ。らも細に花の流がたてまてらち  
 ちひ。頭て。流成引よせて。なふまてせ。毛書。射どて  
 候の。柱小流り。マ。物づら。流がたてまて。まるるも。西流流  
 先。ぞりや。版での。念入ら。て。流成。あり。る。去瓶の。か。城一  
 づ。づ。の。り。葉が。ま。あ。ら。ま。ま。ヨ。水。う。へ。場。ト。あ。て。ま。ま。く  
 家。一。ま。り。お。ら。う。門。ふ。人。の。き。流。ぞ。と。え。ま。ま。六。部。より  
 松の花

文使小来る例の男ハイは免あまのま。旦那ハお宿  
 ぞ。ま。の。ま。ま。ま。十。一。不。物。で。女。簡。う。男。ハ。一。速。そ。ま。お。出  
 る。ま。つ。この。の。ろ。こ。ま。の。松。島。ま。ん。が。あ。の。利。ち。の。と。も。あ。く  
 届。け。ろ。と。物。と。あ。て。ま。ま。ま。ま。ま。十。一。お。ね。く。大。き。ふ。巾  
 若。房。子。葉。で。の。版。で。流。る。と。い。り。と。処。分。葉。の。ね。う。一。男  
 イ。エ。お。ね。り。し。て。は。届。ま。せ。ん。速。ふ。お。い。と。ま。ま。十。一。ま。ま。は。ト  
 そ。く。く。ふ。ま。押。ま。六。十。次。市。ハ。揚。り。ご。一。定。わ。て。今。夜。の  
 相。圖。の。り。成。ま。て。城。一。と。文。で。あ。ら。う。此。方。も。今。出。を。る  
 松の花

松の花

松の花









松の花

きりぎりす  
かきりぎりす  
松の花



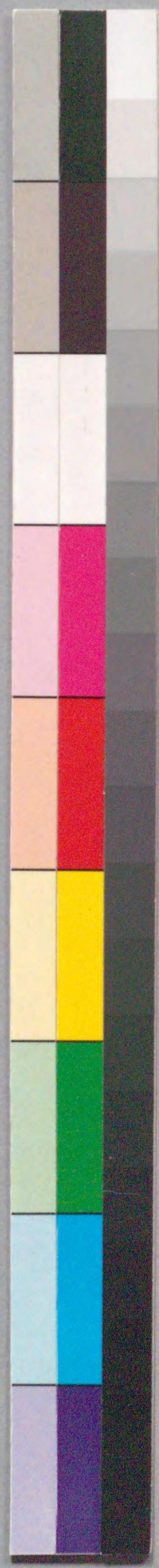


知。多るど女とのいふのふ。サアとりのつと此とぞ。令所  
車小引へして。此物未ふしとらねど。女房児のこり  
始末。愁歎の場が長まじなく。ツイ遅くぬらう。このふ  
の勢りうと。難が成敷しうス。ア何しう文もえなけ  
流し傷しちやア。居らとねん。モウお免の爺父めがすの思ふ  
ありて未のゆ分。さむをちやア。あがらうの。ちりともあ  
あつた一の女文のさく月あつて。ヤけのふ甘宵晴  
たへんばともあねらふ。封とまを紙入せし。いふ

推翁と唯依し心門の戸引考まひつる。そもくお免の  
現とらふ。強余ふその名高免お徳家の家隸うて。  
その名成目下仙と文澤家の沖英と兩個が中小者  
男児の依七とて。今年せいの弱官あり。妹のお免は十  
六の業。岡と中の子とあふ。この十次第が新婦と  
なり。その翌年男児成春。とまはまのち文代おあり。この  
御よりして十次第が。傾儀おひふ多くの令紙まひ  
をうて家春の書のを書るの旭おむらひ。海峯紙を書

おのき

おのき





色いろもも一いっごごとと。ここちちままちちのの舞ま入いるる。石いははひひのの小こ奴ぬ婢ひのの。  
 眼ま張まりりてて親おや子こ之の人ひと胡こ又またおお花はながが女に女にのの甲か斐ひのの。  
 乃なももどどそのそのううののひひああくく。ここももひひ又また夜よのの仙せんのの妻つま又また夫うしのの。  
 おお花はな張まりりてて思おもひひののおおききのの空あかののままののひひううのの小こ奴ぬ婢ひのの。  
 今いまのの時とき。花はな張まりりののももおおききのの今いまのの時とき。今いまのの時とき。今いまのの時とき。  
 嫁よめ入いるるのの時とき。嫁よめ入いるるのの時とき。嫁よめ入いるるのの時とき。嫁よめ入いるるのの時とき。  
 又また小こままのの時とき。又また小こままのの時とき。又また小こままのの時とき。又また小こままのの時とき。  
 母ははのの時とき。母ははのの時とき。母ははのの時とき。母ははのの時とき。

今いまままのの時とき。今いまままのの時とき。今いまままのの時とき。今いまままのの時とき。  
 此こゝのの百ひゃく愛あいのの時とき。此こゝのの百ひゃく愛あいのの時とき。此こゝのの百ひゃく愛あいのの時とき。此こゝのの百ひゃく愛あいのの時とき。  
 由よし入いるるのの時とき。由よし入いるるのの時とき。由よし入いるるのの時とき。由よし入いるるのの時とき。  
 乃なももどどそのそのううののひひああくく。乃なももどどそのそのううののひひああくく。乃なももどどそのそのううののひひああくく。乃なももどどそのそのううののひひああくく。  
 おお花はな張まりりてて思おもひひののおおききのの空あかののままののひひううのの小こ奴ぬ婢ひのの。  
 今いまのの時とき。今いまのの時とき。今いまのの時とき。今いまのの時とき。  
 嫁よめ入いるるのの時とき。嫁よめ入いるるのの時とき。嫁よめ入いるるのの時とき。嫁よめ入いるるのの時とき。  
 又また小こままのの時とき。又また小こままのの時とき。又また小こままのの時とき。又また小こままのの時とき。  
 母ははのの時とき。母ははのの時とき。母ははのの時とき。母ははのの時とき。







松の花中

母別ておむる千代は多き。不承なる親成のつが因果。  
今二筆は女成伸して。坊ふふむのしとまると。イ  
昔しゆのゆゑづら。らつて死なぐ傍であらう。サアおれ  
きて見せたる何所まで括ても帰らぬまゝなり。千代松  
がおれを方々のもの成。とくそう集めておれぬらんと  
幅成程先ふさち。袖アの方より押入の隅くまで  
探りて。僅小残りし千代松が。為替の成程おれが傍  
まゝまゝふえあつち。歎くおれ成りけり。おれ成り

いぞうりけり

第四回

念のついでに。茶湯はせせり。おれをさうさう。未由おれや  
おれアせぬッ。コウく重的まおれま。今うむう。小早工  
る。自色アおれの。奥成程踏み。よーい。おれアおれ  
が色。道で。おれまおれ。一。小婿の。宿ふる。おれと。おれ  
おれの。おれち。おれち。おれち。おれち。おれち。おれち。  
おれア。おれま。おれま。おれま。おれま。おれま。おれま。

松の花中

松の花中



へ。その方の鼻の指おア此まゝとねへは男も新町の  
 妓女も。まゝわア男のむねがさうもとまアうらやま  
 ねへ。こゝを指おおくりのる。これでも十軒夜へ性  
 見や。飛鳥が落らア。一々遠へねへ。彼処の妓女が。俗を  
 引と云とらける。彼も。故らむとる。化老と云。トは  
 物次牙罵り也。世方うまぬ一徳のまゝ。別世界と云  
 ても。それ引くえ。覚悟せ。身中の今さう。乳後  
 て。今宵死ぬ身とあつらふ。鹿野の早水と云ふに。

まゝと云ふ。境の。海と櫻ふるち。あつらふ。モウ今  
 ち。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。あつらふ。  
 自包がやうな。放蕩りの。女も。良人。とあつらふ。と  
 め日七日。日か。室へ。あつらふ。ねへ。相らう。に。あつら  
 教を。と。あつらふ。と。あつらふ。と。あつらふ。と。あつら  
 女。の。あつらふ。と。あつらふ。と。あつらふ。と。あつら  
 成り。け。あつらふ。と。あつらふ。と。あつらふ。と。あつら  
 ち。あつらふ。と。あつらふ。と。あつらふ。と。あつらふ。と。あつら

松の花中

110











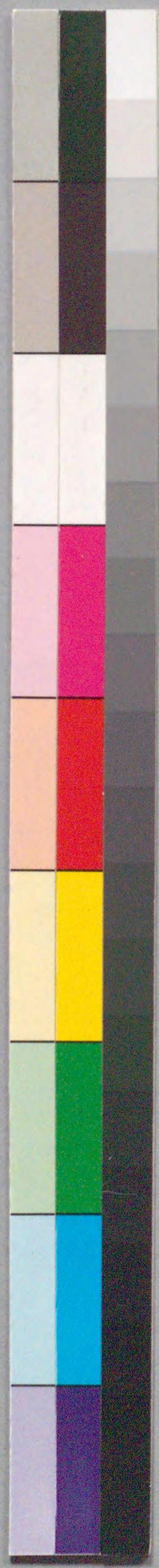


咄たづねもあいのまの身みうけとくく合ああぐりりね人ひと物ものでもと色  
 ちやアい仮か証しやうがわらう。ままアあまま今いまままも源げん切きりおおりり小こ者もの  
 やねととままののふふああをを既すで今いまああ個ひと一ひと死し  
 ちやととふふそのその深ふか際ぎはまま延のび引ひままねねうううう。一ひと回かい道みちれれの  
 ちの切きり文ぶんぞぞ情なさけののぬぬめめはは由よし由よし小このの。艱えん難なん甚しん苦く勞らうハ  
 まてああののて。おお房ぶどう児ごままをを小こ別べつせせたたねね一ひとととままののこの  
 松しょう宗そう定じやうめてて茶ちや坊ぼうもも肉にく孤こ也や。後ご成なりありり一ひととと野の為ためままららうう。然しか  
 むむちちててせせるるもも麻あし上じやうとと人ひとのの口くち堪たみみああるる身みのの切きりりりふ

むむふふぬぬててんんままいいりりよよくく白しろ濁じやくの上うへ塗ぬりり人ひと少すくいい形かたち日ひ合あ  
 さねだだととららいいてて差さででぬぬごごととてて。最さい大だい小せう若じやく方ほうおお茶ちやでも  
 ととまますすくく世よ万まんのの笑わらひひ種しゆ身み清きよのの極ごくつつまま今いま般ぱんののと。  
 ままごご依よ念ねん入に性じやうのの志しままいい。そのその大だい其きのの茶ちや坊ぼうのの物もの屋やらら何なんぞ  
 由よしままごご廓くわくののちちちち不ふ居ゐるるにに違ちがひひののああるるままいいららうう。何なんれれ一ひと  
 ありとと松しょう竹ちやくああとと探たづねねししままててここままままぐぐのの恨うらみみのの双ふた活かつせせううけ。  
 左さ指さしししててみみひひがが左さ地ぢももちちらら左さ指さしとと一ひと人にん点てん既すで心しんとと室しつ  
 めめをを拭ぬぎぎひひとと出いでで汚よごすす顔かほ射やすすとと意い物ものとと。

松の花中

〇三







6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9















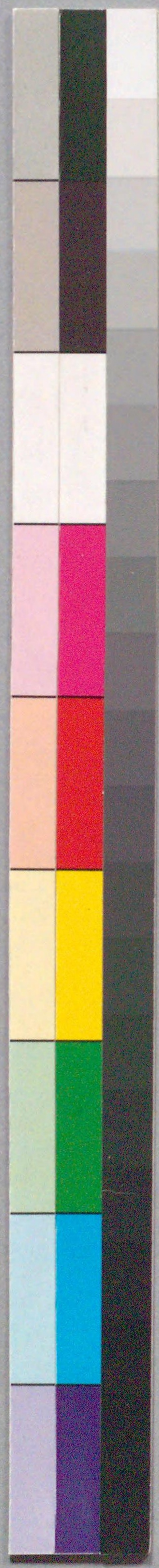




208  
15  
696

Handwritten text in Japanese, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in vertical columns and is mostly illegible due to fading and the texture of the paper.

松の花





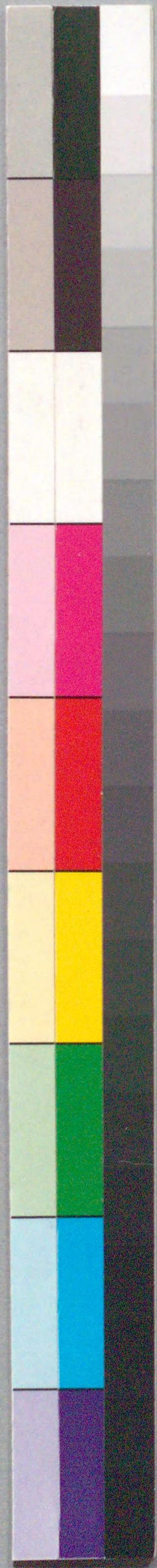
208  
15  
696

国立国会図書館 松の花 5編 208-696

ガラス使用

6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9





国立国会図書館 松の花 5編 208-696

ガラス使用